

1. 調査報告概要表

作成日 2009年11月19日

【評価実施概要】

事業所番号	1071000184
法人名	有限会社グループケアホームほほえみ
事業所名	グループホーム ほほえみ
所在地	群馬県富岡市星田80-3 (電話) 0274-63-2966

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成21年9月16日

【情報提供票より】(21年 7月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 7 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 5 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	7.7

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,500 円	その他の経費(月額)	9,600 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 200 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
または1日当たり			

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	73 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立富岡総合病院・大竹外科胃腸科・大竹歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

明るく自由な環境の館内に加え、庭では季節ごとに楽しめる草木や花がそろっている。動物とも触れあえる広い庭でゆっくり日光浴もできる開放的なホームである。管理者が地元の出身者であり、開設当初から地域との関わりは自然にできており、日常的に気軽に行き来している。職員は利用者の思いを大切に、利用者それぞれのペースで生活が楽しめるように支援している様子がうかがえた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の結果においては、職員を育てる取り組み・重度化等に向けた方針の共有・水分摂取量等の確保の支援について管理者が中心となって全体会議で検討し改善に向けて取り組んでいる。地域密着型サービス理念や評価の活用・介護計画の見直しについては、検討課題となっている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については、職員に提示しながら管理者が中心になって作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1度開催している運営推進会議では、ホームからの情報提供が中心になっているが、市に対し参加者からも要望を伝えており、積極的な意見交換の場になっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来訪時には、ホームでの生活の様子を伝えながら意見を聴くように努めている。運営推進会議に参加した家族からは、重度化に向けた取組みの書面化においては意見を出してもらった。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>管理者家族が地域で生活しているため開設当初から地域との関わりは日常生活の一部である。地域の行事への参加は勿論、住民もホームには気軽に立ち寄ってくれている。散歩の途中で野菜をいただいたり、心配して声をかけてくれるなど日頃からの交流が根付いている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームとしてスタートする以前から3つの柱を理念に掲げている。地域の中で生活することは当然のことと理解しており、地域密着型サービスになってから、理念の見直しを運営推進会議で議題に挙げてはいるが、特に変更はしていない。	○	地域において高齢者福祉のリーダーとしての自覚を持って活動していることがうかがえる。行政や地域住民に広めるため、地域密着型サービスが地域の中で暮らし続けていくことを支えるサービスである内容を既存の理念に盛り込んでみてはどうか。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の大切さを忘れないよう、ホールや事務室に掲示し、いつでも意識できるようにしている。また、管理者は毎日の業務の中で職員に伝えるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	もともと地域に根差したホームであったため、住民との付き合いは日常的に行っている。村世話人からの声掛けで行事に参加したり、ホームにも立ち寄ってもらっている。散歩途中に野菜をいただいたり、利用者が一人で出かけても声をかけてもらうなど心配りしてもらえる関係ができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果や自己評価は、管理者が一定の方針を持って全体会議で検討している。管理者は、職員から積極的な意見が出されないことが悩みであり、今後も工夫したいと考えている。	○	職員の積極的な意見を引き出すために、職員が出席していない会議や研修・行政からの情報などを文章で確実に伝達し、考えるヒントを提供しながら、一人ひとりの意見も取り入れていけるよう工夫してはどうか。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催している運営推進会議には、市の担当者も今年度4回は参加してもらっている。ホームからの情報提供が中心であるが、市の担当者が増えたことで、会議の参加者から市への要望なども出されるようになった。さらに活発な意見交換をしていきたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市とは日常の交流が定着しており、ホーム独自の意見の他に、同業者との集まりで出される様々な要望等も伝えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族は月に1度は面会に来所しており、その際にホームでの生活の様子を伝えている。その他必要に応じて個別に連絡を取っている。	○	ホームからの様々な情報提供によって、家族の関心も高まり意見も出しやすくなるため、どの家族へも知らせたい情報(行事の予定や結果・他の家族からの感想や意見・行政の情報など)を個別のお便りとは別に作成してみてもどうか。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族の出席もお願いしており、外部評価の結果等も報告している。家族からは看取りの方針の書面化について意見が出されており、参考にしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や退職はほとんどなく、顔なじみの関係が継続している。職員の補充は必要に応じて行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度の会議の時に計画作成担当者が中心になって情報提供しながら勉強会を行っている。職員の外部研修参加も検討しているが、現状では厳しい。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者間では地域の同業者と交流し、悩みを相談し合っている。連絡協議会に参加し、交換研修は行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前には見学や状況に応じて体験宿泊も受け入れる方針である。ホームとしては、現状の環境に適應できるかどうかを会議で検討し受入れの決定をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	長期の入所者が多く、職員との関係もお互い様という気持ちで支え合いながら生活している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でそれぞれの気持ちを尊重するようにして希望や意向を把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者がたてた介護計画を全体会議で検討し、本人家族に確認してもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3カ月または状況に応じて見直しを行っている。毎月職員の情報伝達も兼ねケース検討もを行っているが、モニタリングとしての記録は残していない。	○	職員が介護計画をいつでも意識してケアサービスが提供できるよう、情報伝達に加えモニタリングを毎月行い、さらに実施記録も残す工夫を検討していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院援助や買い物、なじみの場所への外出など希望に沿って柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に確認した希望のかかりつけ医を受診してもらうよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営推進会議で出された意見も参考にして、急変時や重度化に向けた意向確認の書面を作成している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	それぞれの生活やプライバシーを大切にした対応をするように心掛けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの体調や思いに合わせた過ごし方をしてもらえるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も利用者と一緒に食卓を囲み食事を楽しむようにしている。またテーブル拭きや片付けなどできることを一緒にしてもらっている。外食に代わって出前を利用することもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	協力医療機関の医師の助言で入浴は原則火曜日と金曜日の週2回としている。必要に応じてシャワー等の支援は行っている。	○	医師の指導で現在は週2回の入浴支援となっているが、利用者の中には入浴を楽しみにしている人もいることを念頭に入れ、声掛けや体制づくりの再検討をしてみたいかがか。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	テーブル拭きや食事の片づけ、洗濯たたみや編み物など、デイルームでいつでも楽しみながら過ごしてもらえるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、庭での日光浴など建物の中以外でも安全に過ごせるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関は勿論、館内はどこでも自由に入出りできる。居室の硝子戸も全開できるため開放的な環境である。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回避難訓練を行っている。今年度は火災通報装置設置のため今のところ実施していない。年度内には消防署に協力してもらい訓練の実施を予定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分はチェック表で詳しく内容を記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは明るく趣味の道具が用意されていたり、さりげなく誰もがなじめる写真が飾られている。玄関先の庭は広く、季節の草木や花が楽しめ、クジャクや犬など動物との触れ合いもでき、ゆったりと日光浴ができる安全な環境になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には思い思いの家具や使い慣れた小物が持ち込まれ、居心地良く過ごせる工夫がされている。		